

思考力を育てる言語教育：問い生成先行型の読解 / 聴解と、複数テキストの批判的統合

Language Education for Developing Thinking Skills: Question-Provoking Reading/Listening Comprehension and Critical Integration of Multiple Texts

講演者：松下達彦（国立国語研究所 研究系教授）

日 時：7月8日（ダイアログハウス2階国際会議室）

参加者：32名（学外参加者：12名）

概 要：

当日は下記の通り行われた。3時間通して非常に密度の高い内容で、グループでのディスカッションも白熱し、時間が足りないほどであった。講師のご厚意で、予定していた時間外に30分以上にわたって、質疑応答が行われた。

講義1＋質疑応答：「考える市民」を育てるための創造的思考と批判的思考

ワークショップ1：問いの分類またはキーワードマッピング（「当日課題1」）

ワークショップ2：追加読解 / 聴解（「当日課題2」）

講義2＋質疑応答：なぜ問い生成先行なのか

ワークショップ3：テーマディスカッション&リサーチ（「当日課題3」）

ワークショップ4：ユニット統合シート記入（「当日課題4」）

講義3＋質疑応答：複数テキストの批判的統合とは

振り返り共有とディスカッション、まとめ

講義とワークショップは下記のような内容であった：

読解を通していかに創造的思考や批判的思考を養うことができるかが示された。具体的には、キーワードをつなげて、整理した後、分類し、問いを作成する「問いの生成先行型」読解授業が紹介された。問いを先に生成することによって、複数のテキストを批判的に統合するプロセスを体験することができ、精緻化され、問題解決のための具体的な問いが広がる。このような問いで活性化された知識が理解を助け、読む目的が明確になり、読むことの動機付けが向上することが期待される。さらに、複数のテキストを読み、さまざまな読み物から情報や意見などに触れて知識を構成していく過程（複数テキスト統合の過程）で、批判的思考力を養うことが期待できる。

成 果：

- ・ICUではクリティカルシンキング（批判的思考）の重要性が謳われることが多く、教員も意識して授業に取り組んでいる。しかしながら、実際に語学（日本語）の授業で読解を行う場合、いかにして批判的思考力を養うのか、そのプロセスを整理し具体的に検討する機会は多くなかったと言える。このような課題に、今回、JLPだけでなくELAや、CLAの教員も参加し、共に議論することができたことは、お互いに大いに刺激となり、学びとなった。
- ・学外からの参加者からは、「読解の授業に対する意識が変わった」「ICUが何を大切にしているのか感じることができた」「対面で少人数のグループで意見交換できたことは貴重な経験になった」「少し内容が多すぎたが、講師の方がわかりやすく進めてくださったので、なんとかついていくことができた」などの声が聞かれた。

澁川 晶